こんにちは、若松在宅医療・介護連携支援センターです！　令和５年度　夏号

平素より医療関係者・介護関係者のみなさまには、若松在宅医療・介護連携支援センター（以下、当センター）の事業にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

【研修会のご報告】

８月 23 日に、令和５年度医療・介護従事者合同研修会を開催しました。１部では、社会福祉法人兼恵園　特別養護老人ホームシルバーサンホーム介護・看護課長　橘　恭平　先生に「施設での看取り」をテーマに、ご利用者・ご家族の意向確認や、カンファレンスの実際、施設の取り組みについてご講演いただきました。また、職員への精神的ストレス緩和のため、急変に備えた DNAR リスト作成や全職員へアンケートを行い、不安や改善点を一つずつ解決しておられました。最期の瞬間に立ち会えない場合、「誰も気が付かない程に穏やかに安らかに旅立てた事は、本人が楽に亡くなった証拠」という先生のお言葉は、グリーフケアに繋がると学びました。２部では、寄り添い処こころ代表の中村鮎美先生に「納棺師がお伝えする死後の変化と処置」についてご講演いただきました。ご遺体に応じたケア方法や綿花の詰め方、施設や病院でのお見送り後の変化等、具体的にとてもわかりやすくご講演いただき、葬儀会社へ引き継ぐまでの保湿や保冷の大切さを学びました。また、エンゼルメイクの実践においても、手順やポイント、注意点等、マネキンで実演しながらご講演いただき、現場での実践に繋がる大変学びの深い内容でした。そして、元気だった頃の姿へ戻すことでご家族だけでなく、関わっていたスタッフのグリーフケアに繋がることを学びました。何より大事なことは、ご家族の気持ちを第一に心に寄り添う事、その重要性を改めて認識しました。

【普及啓発講演について】

７月は、小敷公民館のサロンと岩屋漁業センターの老人クラブにて、「これからの私を考えてみませんか～人生の最後まで自分が望む暮らしはできる～」というテーマで、在宅療養や人生会議について市民の方にお話をさせていただきました。小敷のサロンは以前、とびうめ@きたきゅうの啓発でお邪魔をさせていただきましたが、岩屋の老人クラブは今年結成された新しい団体です。しかし、どちらの参加者もお元気で、なかなか「在宅療養」や「人生会議」と聴いてもピンとこないかもしれません。または「そんな縁起でもないことを考えるなんて…」と感じた方もいらっしゃるかもしれません。突然の病気や災害など、いつ自分が気持ちを伝えられない状態になるかはわかりません。だからこそ、元気な今のうちから「これからどう過ごしたいか」「どんなことを大切にしたいか」話しておくことが大事になってきます。きちんとした話し合いの場を設けなくても、普段の会話からや、健診前、有名人の病気のニュースなどをきっかけに話すのも一つです。万が一の時の道しるべに、信頼できる方へ「自分」について話してみませんか。

★今後の研修案内★

★「成年後見制度につなぐために本人を支援している関係者ができること」

北九州成年後見センター
行橋事務所所長　篠原　博幸　氏

9/14(木)19:00～20:30　若松区医師会館及び Zoom

★「8050 問題～複合的な課題を抱える家族の支援に必要な多職種連携～」

山口大学大学院医学系研究科保健学専攻
教授　山根　俊恵　先生

10/11(水)19:00～20:30　若松区医師会館及び Zoom

とびうめ@きたきゅうの登録状況

いつも登録促進にご協力いただき、有り難うございます。
８月末までの新規登録者数：40,202 名。
うち若松区内 4,371 名（区内 65 歳以上の高齢者の 16.5%）に登録いただいています。マイナンバーカードとの違いは…？とびうめ@きたきゅうは緊急連絡先の登録も可能です。万が一の際の安心材料として、引き続きご協力をお願いいたします。

若松在宅医療・介護連携支援センター　浦野・猪口（ちょくし）志